

# Weekly Bulletin 2020-2021



RI会長  
ホルガー・クナー



ロータリーは  
機会の扉を開く

静岡東ロータリークラブ

会長/相原雄治 幹事/長島秀親

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長  
相原雄治

第2982回例会

令和3年5月6日

《来賓卓話》

《司会》長島 秀親 君

「夏のオリンピック」

《合唱》「手に手つないで」/「奉仕の理想」

フローラン・ダバディ 様

《ソングリーダー》神野 一成 君

《ゲスト》ジャーナリスト フローラン・ダバディ 様

《会長挨拶要旨》相原 雄治 会長

現在、4都府県に発令されている緊急事態制限が2週間から1か月ほど延長されるということです。静岡県下ではまだ感染者数の急激な増加は確認されていないようですが、今後の推移を注視し、例会の開催等にも引き続き注意を払っていきたいと思います。

本日のゲストは、フローラン・ダバディさんです。本来の予定ではこの会場にお越しいただけるはずでしたが、東京からの来静でもあり本日はZOOMによる卓話となります。

紹介者は森下会員です。ダンチュウの植野さんに続きさすがの人脈です。フローランダバディさんの紹介です。ダバディさんは1974年パリ生まれ。パリのINALCO(国立東洋言語文化学院)日本語学科で日本語の学位取得。1998年に来日し映画雑誌『プレミア』の編集に関わる。99年から02年までサッカー元日本代表トルシエ監督の通訳・アシスタントを務める。現在はテニス番組のナビゲーター(WOWOW)や、フランス大使館のスポーツ/文化イベントの制作に関わるなどで活躍言語はフランス語、英語、日本語(イタリア語、スペイン語 会話)。

本日のテーマは「夏のオリンピック」です。

非常に興味深い内容だと思います。ダバディさん、よろしくお願いいたします。



《卓話要旨》

皆さんこんにちは。スポーツジャーナリスト、スポーツキャスターのフローラン・ダバディです。先ほどのプロフィールで1つだけ補足させていただきたいと思います。実は私は1996年から1997年までの1年間を静岡大学で過ごしました。1998年から社会人として来日しましたが、日本語の勉強は1991年から始めており、夏のホームステイ等を経て、1995年の秋から念願の留学ができました。その当時に師事していた先生が静岡大学副学長の山本先生です。私の周りの仲間が東京大学や早稲田大学に留学先を選ぶなかで、私は先生とのお縁もあって静岡大学を選ばせていただきました。とても楽しい1年間過ごさせていただきました。当時は国際交流施設が静岡にあったため、もしかしたら街中でお会いした方もいらっしゃるかもしれません。

今日はジャーナリストとして、メディアに公表されている内容やそれ以外の内容も含めて東京オリンピックについてお話できればと思います。

東京オリンピックについては、私の周辺で毎日のように、

その開催是非について聞かれます。今週の日曜日にも国立競技場でフランスのTVでの放送がありました、その時も同じ内容でした。私は1年前から開催されるか否かについては持論を持っており変えてません。IOC、FIFAなどの国際スポーツ機関の情報からすると開催中止は考えにくいと思います。第二次世界大戦で中止になった事例とは、今は大きく状況が異なると思います。本当の課題は何か。1つ目はコロナウイルスの中で選手たち、メディアがどうなのかという点です。バブルが作られるのか、という論点がありますが、私はバブルはないと思います。選手は来日前後で2回、来日後は毎日PCR検査を受けます。唯一バブルの中にいるのは海外メディアです。ただし、海外から来日するメディアは自身が宿泊するホテルと会場を往復するだけで東京都内には出られない。ファンもスタジアムに入れるものの選手との接点は持てません。陸上選手の試合後のサインなども同様です。次の課題は2000人くらいのスタッフ、10000人くらいのボランティアです。彼らの中には通勤する者もいるが、彼らがアスリートと接触する可能性は懸念材料とされています。バツハ会長も言及しているが、ボランティアにワクチンを打たせるのか、という点については日本は今からでは間に合わないと思っています。

そのいっぽうで選手村で感染者が発生した場合に備えて、豊洲に仮設の病院を作るという噂も出ているが、今から3カ月で作れるのかという点、これも懐疑的であるがかなり前向きに検討されている。この施設は病院として作るよりも既存のホテルを隔離施設として利用するのが現実的であると思っている。ちなみに選手、メディアに対する隔離は先ほどの話のとおり、来日前後と毎日のPCR検査を前提にありません。

また、日本におけるフランスの色々なイベントについて、フランス大使館から聞くと、色々なアーティストにはビザが発行されないと聞いている。スポーツ選手にはビザが発行されるにも関わらず、世界的に有名な建築家や女優には発行されない、これは未だに日本がスポーツを優先している、と映ってしまう。

次にアスリートはどうか、という観点からはそれぞれの競技の予選が終わっていない。陸上は6月まで大きな大会

が続いており、選手選考が終わっていない。ボート競技なども大きな大会がない。こういった場合は最終的にはランキングで決めるしかないのではないか。テニスなど、ランキングをどこかで止めて選手を選ぶしかない。また、トップスターのプロ選手は選手村に本当に来るのか、これについては戸惑っている選手も多いのが実情である。サッカー、テニス、陸上など、トップ中のトップの選手は来日しないのではないか、と思っている。この場合は以前のようなアマチュア向けのオリンピックとなると思っている。もう一つ、トップスターが来日しない理由は、各競技のスケジュール的な問題がある。自転車競技の場合、ツールドフランスなどがあり、物理的にはオリンピックの3日か4日前に来日する事はできるが、大会が終わって体力を消耗した選手が来日する可能性は回避する可能性が高いと思っている。テニスもウィンブルドンが7月中旬に終わるので、東京オリンピックのテニスが7月末に開催されるとすれば、ウィンブルドンを優先する選手も多く、オリンピックは行かない選手が多いのではないか。逆に、大坂なおみ選手のようにオリンピックに懸けている選手は4大会を辞退するのではないかと。ちなみにテニスの競技について、決勝戦は男子が平均15000円であるのに対して女子は50000円です。おそらく、大坂なおみが決勝に進出するとして値段は設定されている。

一昨日、富士スピードウェイに仕事で赴き、ミニバブルで取材に行き、山の上の自転車のロードレース会場を視察してきたが、とてもいいコース。トップスターが来日しなくても気候を味方にした日本選手にはチャンスがあるのではないかと。富士スピードウェイでは25000人の観客が集まっていたが、パドックにも観客は集まっていた。そういう意味ではオリンピックで選手、関係者、ファンを隔離するのは難しいのではないかと、とも思っている。

こういった状況にも関わらず何故、開催されるのか、という事で言えば、日本で開催されるからです。マスクや消毒など、日本はとてもしっかりしているうえ、アスリートたちも自身が感染する訳にはいかないはずであり、危機管理はしっかりできていると思う。唯一、まだ情報が少ないのは事前の合宿の時にどう過ごすのか、どう管理されるのか、という点。オリンピックはアスリートにとってもとても名誉なこ

と。金メダルの選手の報奨金はアメリカでも 300 万円、銅メダルで 100 万円程度。それでも参加したい大会。今回、ロシア、北朝鮮、感染状況が悪化している地域の国はキャンセルが相次ぐかもしれないが…。

#### 《スマイル報告》

森下 登志美 君 ダバディさんを卓話者にお迎えしてスマイル。

大脇 順実 君 ダバディさんの世界基準のお話を伺えることを楽しみにスマイルします。

伊藤 洋一郎 君 コロケは好きです。でも、もっと好きなものがあります。

青島 隆晴 君 伊藤先生のもっと好きなもの…知ってます！ウソです。プチスマイルが少ないと寂しいのでプチスマイルします。

#### 《出席報告》

4月の暫定出席率 89.14%

(会報作成 石田 純一)